

令和 8 年度病虫害発生予察特殊報 第 1 号

令和 8 年 1 0 月 8 日
岐 阜 県

- 1 発生植物 ウメ（生産園地）
- 2 病虫害名 クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* (Faldermann)
- 3 発生地域 岐阜地域

4 発生状況

令和 8 年 8 月下旬、岐阜地域のウメ（生産園地）4 樹において、クビアカツヤカミキリと疑われるフラス（幼虫の排泄物と木くず）発見の連絡があった。その後の経過観察により継続的なフラスの排出が見られたため、専門家と現地確認を実施したところ、排出されたフラスの量と特徴からクビアカツヤカミキリのものであることが確認された（写真 1、2）。

本種は平成 24 年に国内で初確認されて以降、9 月 30 日現在で 22 都府県で確認されている。本県では、西濃地域のサクラで確認され令和 8 年 3 月 6 日付で「令和 7 年度発生予察特殊報第 2 号」を発表している。今回、生産園地で初めて加害が確認されたため、改めて「発生予察特殊報」を発表するものである。

本害虫の被害はウメやモモ等で甚大なため、当該園地での徹底した防除対策と未侵入地域では警戒体制の構築が重要である。

5 形態、生態および被害

成虫の体長は約 25mm～45mm で、全身は光沢のある黒色、前胸背板（首の部分）が鮮やかな赤色を呈するのが特徴である（写真 3）。

幼虫は乳白色の芋虫状で、樹体の形成層から木質部にかけて不規則な坑道を形成して食害する。1～3 年かけて樹体内で摂食・成長し、蛹化を経て羽化する。老熟すると体長は 40mm～50mm に達する（写真 4）。

成虫は年 1 回、6 月中旬～8 月にかけて羽化・出現する。雌成虫は 1 個体あたり 300 個以上の卵を樹皮の隙間に産下する。この極めて高い繁殖力が、短期間での被害拡大の要因となっている（写真 5）。

幼虫が樹木内部を食害することで、樹勢の低下および枯死を招く恐れがある。早期発見には、幼虫の活動期である 3 月～10 月に、フラスの有無を確認することが有効である（写真 1、2）。

6 防除対策

（1）巡回による早期発見

果樹園の見回りを定期的に行う。成虫発生期には成虫を、それ以外の時期は樹幹や地際部にフラスの有無を確認する。

（2）成虫の駆除

成虫発見時はその場で直ちに捕殺する。本種は外来生物法に基づく「特定外来生物」であり、生きたままの持ち運び、飼育等は同法により禁じられている。

(3) 物理的防除

フラスを発見した場合は、排ふん孔から針金等を挿入して孔内の幼虫を刺殺する。
また、成虫発生期は樹体をネットで覆い拡散を防ぐとともに、産卵を抑制する。

(4) 化学的防除

排ふん孔へスプレー式殺虫剤を注入する。農薬の使用時は必ずラベルを確認し、使用基準を厳守する。



写真1 排出された大量のフラス



写真2 特徴的なひも状のフラス



写真3 成虫
(左：オス、右：メス)



写真4 引き出された幼虫



写真5 産下された卵
(ブラックライトにより青く発光する)

※（写真1～5 岐阜県病害虫防除所所有。なお、写真3～5は資料画像。）